

平成 29 年度 （公財）かながわ国際交流財団

高校国際教育支援事業 実施校募集！

国際教育の講師を派遣します！

*「国際教育って？」→国際社会において、地球的視野に立って行動するための考え方や能力を育むための教育活動全般を想定しています。（関連する分野：国際理解教育、人権教育、開発教育など）

実施テーマ：

地球規模の課題を考える

多文化社会を生きる

グローバルな視野で活躍する先輩と出会う

留学生との交流・グループワーク

国際教育・参加型学習に関わる教員研修



《事業概要》

公益財団法人かながわ国際交流財団は、「世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川」を目指し、グローバルな視野を持ち、共生社会をつくる人材の育成や、県内における多文化共生の推進などを目的とした事業を展開する神奈川県所管の公益法人です。

一人でも多くの青少年が「世界の入口」に立てるよう、プログラム企画の相談や講師の派遣を通して、高等学校等での国際教育をサポートします。

対 象：神奈川県内の高等学校等

※公立・私立を問いません。外国人学校（高等学校相当）からもご応募いただけます。

募集校数：年間 15 校程度

実施時期：平成 29 年 6 月 19 日（月）～平成 30 年 3 月 23 日（金）

応募方法：企画書を FAX または E-mail にてお送りください。

※企画書はこの募集要項の 4 ページ目、または、次の URL からダウンロードできます。

<http://www.kifjp.org/nimp/highschool>

受付期間：平成 29 年 3 月 21 日（火）～平成 30 年 1 月 12 日（金）

※企画書の提出からプログラム実施の可否のご連絡まで最低 2 か月程度のお時間をいただいております。企画書は余裕をもってご提出ください。一部、企画書の提出から 1 か月半程度で実施可能なプログラムもございます。詳細はお問い合わせください。

※募集校数に達し次第、受付を終了いたします。

※講師や内容については、お気軽にご相談ください。

費 用：講師への謝金・交通費等は、原則として当財団が負担いたします。

※謝金を伴う実施は 1 校につき年間 1 件とさせていただきます。

※学校に関連予算がある場合は、講師への謝金・交通費等をご負担ください。

※ワークショップの実施にあたっては参加者や講師の人数により、一部謝金のご負担をお願いする場合がございます。

※できるだけ多くの学校にご参加いただくため、初めてお申込みいただく学校を優先し、当事業で 5 回以上講師派遣を行った学校のお申込みについては、他校を優先させていただくことがあります。

主 催：公益財団法人 かながわ国際交流財団

後 援：神奈川県教育委員会、一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

【お問い合わせ・お申し込み】

公益財団法人かながわ国際交流財団 高校国際教育支援事業担当

住所：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

かながわ県民センター13 階 多言語支援センターかながわ内

電話：045-620-0011 FAX：045-620-0025 E-mail：haken@kifjp.org

ホームページ：<http://www.kifjp.org/nimp/highschool>

国際教育プログラムの企画運営や講師に関するご相談は随時受け付けております。

有料でのプログラム実施についてもお気軽にお問い合わせください。

《プログラム実施までの流れ》

【1】企画書のご送付

- ・所定の企画書（P4）に、実施テーマ（P5参照）、希望日程、対象、プログラム内容のイメージ、希望する講師名、期待する効果などを書いて、FAXまたはE-mailにてお送りください。
- ・企画段階でのご相談もお受けしております。お気軽にご連絡ください。
- ・企画書提出からプログラム実施の可否のご連絡まで最低2か月程度のお時間をいただいております。企画書は余裕をもってご提出ください。一部、企画書の提出から1か月半程度で実施可能なプログラムもございます。詳細はお問い合わせください。
- ・企画書は、この募集要項の4ページ目、または、次のURLからダウンロードできます。
<http://www.kifjp.org/nimp/highschool>

【2】実施の可否のご連絡

- ・企画書の内容について確認し、企画書提出後2か月をめぐりに実施の可否をご連絡します。
- ・企画内容、時期などにより、ご希望に応じられない場合はお断りすることがあります。
- ・応募多数の場合は、本事業により過去に支援を受けた回数の少ない学校を優先します。

【3】確認書のご提出

- ・日程、講師等の確定後、確認書をお送りします。必要事項をご記入いただき、公印押印の上、ご提出ください。

【4】事前打ち合わせの実施

- ・プログラム実施の1か月から2週間前までに、実施校のご担当の先生、講師と当財団担当者の三者で、プログラム内容、当日の進行、機材などについて事前打ち合わせを行います。原則としてかながわ国際交流財団の事務所（横浜駅から徒歩5分）、または講師が指定する場所までお越しいただくようお願いいたします。

【5】プログラムの実施

- ・実施校による司会進行のもと、プログラムを実施します。当日は当財団担当者も同行し、講師のフォローを行います。
- ・パソコン、プロジェクター、音声機材等の準備、設置、設定は実施校をお願いいたします。
- ・当財団の協力による実施である旨、受講者に明示をお願いいたします。また、当財団が実施する高校生向けのプログラムを受講者にご紹介することがあります。
- ・プログラムの様子を撮影し、広報等に活用する場合があります。
- ・プログラムの実施について学校ホームページ、広報誌などに掲載する場合にも、当財団の協力による実施である旨、明記をお願いいたします。

【6】アンケートのご協力

- ・ご担当の先生とプログラムの受講者には、プログラム終了後にアンケートへのご協力をお願いいたします。

FAX : 045-620-0025 E-mail : haken@kifjp.org
公益財団法人かながわ国際交流財団 高校国際教育支援事業担当 行

「高校国際教育支援事業」企画書

- (1) 学 校 名 : _____
- (2) 担当教員 : _____ 学校長 : _____
- (3) 連 絡 先 : 電話 _____ FAX _____
E-mail _____
連絡のつきやすい時間帯 _____
- (4) 日 程 : 第一希望 _____ 第二希望 _____
希望時間 _____ : _____ ~ _____ : _____
- (5) 会 場 : _____
- (6) 対 象 : _____ (人数 : _____ 名)
- (7) 実施テーマ : (_____) ※P5の「実施テーマ」から選んでください
- (8) 希望するプログラム内容のイメージと講師名、期待する効果
※できるだけくわしく、具体的にご記入ください。
- (9) 年間計画等における本プログラムの位置付け :
- (10) その他 (必要に応じて関係資料を添付してください)

《実施テーマ》

下記の A～E からお選びください（P4 の企画書に記入してください）。

年間実施件数

A 貧困、平和、人権問題など、地球規模の課題を考える

3 件程度

グローバル化が進む中、貧困や紛争、人権問題など、国際社会全体に関わる多くの課題が山積、複雑化しています。高校生世代が将来直面する「地球規模の課題」について考えます。

B 多文化社会を生きる

3 件程度

神奈川県には約 170 か国、17 万人の外国籍県民が生活しています。企業のグローバル化（海外進出・対日投資等）、国際結婚、2020 年東京オリンピック・パラリンピックなど、海外から来日し、生活する人々は益々増加すると考えられます。多文化化する社会の現状と、異なる背景を持つ者どうしが共生していくために、何が必要かについて考えます。

C グローバルな視野で活躍する人と出会う・進路を考えるきっかけをつくる

3 件程度

国外・国内を問わずグローバルな視野を持ち活躍する社会人から、高校時代から現在に至るまでの経験を語っていただき、将来や進路について考えるきっかけをつくります。

D 留学生との交流・グループワーク

4 件程度

D-1 複数校生徒 参加プログラム

- ・県内で学ぶ留学生を複数名派遣します。グループワークなどを含む企画実施が可能です。
- ・D-1 に限り、複数校の生徒が参加するプログラムへの派遣となります。
- ・使用言語は相談に応じます。（日本語または英語）

D-2 東海大学別科日本語研修課程 留学生交流プログラム

- ・東海大学で日本語を学ぶ留学生を派遣する特別プログラムです。
- ・内容は留学生による出身国紹介のほか、留学生と高校生のコミュニケーションを重視したプログラムなどのご相談が可能です。
- ・同一時間帯に 1 クラスに対し 3～4 名を目安に留学生を派遣します。複数クラスで同時に交流活動ができます。
- ・使用言語は日本語のみです。留学生の出身国の指定はできません。
- ・派遣可能時期：5 月中旬～7 月下旬、9 月下旬～1 月下旬
※5 月中旬～7 月下旬の実施を希望する学校を優先させていただくことがあります。
- ・派遣可能範囲：原則として、東海大学湘南キャンパス（神奈川県平塚市北金目 4-1-1）から車で片道 1 時間程度までの学校に限ります。

E 教員研修

2 件程度

E-1 上記 A～C のテーマについての講演

E-2 生徒の参加・コミュニケーションを促すワークショップの体験、進行等

生徒の主体的な参加やコミュニケーションを促すワークショップの体験、実施のための教員研修も可能です

- ・これからのグローバル社会を生きるために必要な力として、語学力に留まらないコミュニケーション能力、主体性・積極性、協調性・柔軟性、異文化に対する理解や次世代まで視野に入れた社会貢献の意識などが挙げられています。
- ・講演だけではなく、参加型ワークショップの講師派遣も可能です。
- ・内容により、効果的に実施するために適切な時間・人数規模があります。詳しくはお問い合わせください。

《実施イメージ》

テーマ	タイトル	内容
貧困・平和・人権問題など、地球規模の課題を考える	世界の紛争地に平和を築く	紛争状態にある国や地域の現状を認識するとともに、武装解除や平和構築に取り組む活動を知り、平和について考える。
	フェアトレードを通して考える 「共に生きる」ということ	公正な世界に向けて、身近なところから何ができるか、「フェアトレード」を通じて考える。
多文化社会を生きる	かたちのない大切なもの ～難民としての体験をもとに～	難民としての体験談を聞き、母国に住み、平和・自由・人権を享受できる素晴らしさに気づく。多様な背景を持つ人々が暮らす社会の現状を知る。
	「外国人」とは？「ハーフ」とは？ 「日本人」とは？ ～多文化共生を考える～	20 組に 1 組は国際結婚と言われる現在、日本に暮らす人々の多様性が広がっている。「ハーフ」をキーワードに様々な思いこみや日本社会が見えてくる。
グローバルな視野で活躍する人と出会う	遠いけど近い国際協力 ～NGO で働いてみて～	貧困地域に暮らす子どもたちなど、海外で困難な状況にある人々を支援する NGO の活動について学ぶとともに、非営利団体の職員という仕事に触れる。
	世界とのつながりで生まれる未来 ～自分でデザインする世界とのつながり方～	英語が苦手だった高校時代から、留学経験などを経てグローバル教育に携わるようになった経験談。生徒自身が未来を描くワークも行う。
参加型ワークショップ	世界がもし 100 人の村だったら	メールメッセージで広がった「世界がもし 100 人の村だったら」を使い、実際に身体を使いながら、世界の格差や多様性を体感する。
	参加型学習手法を学ぶ	生徒の主体的な参加や発言を促す参加型学習の有意性と効果を知り、実践のために必要なスキルを学ぶ。 ※教員研修

過去 9 年間の実施校（50 音順）： 県立麻生高校、県立麻生総合高校、県立厚木高校、県立綾瀬西高校、県立有馬高校、アレセア湘南高校、県立伊志田高校、県立磯子高校、県立海老名高校、県立大楠高校、県立追浜高校、県立神奈川総合高校、県立神奈川総合産業高校、県立金沢総合高校、県立鎌倉高校、県立上鶴間高校、県立川崎高校、慶應義塾高校、県立港北高校、県立相模原青陵高校、県立松陽高校、県立城郷高校、県立新城高校、県立住吉高校、県立逗葉高校、県立西湖高校、県立瀬谷西高校、創志学園クラーク記念国際高校横浜キャンパス、川崎市立高津高校、川崎市立橘高校、県立茅ヶ崎高校、県立茅ヶ崎西浜高校、県立津久井高校、県立鶴見総合高校、県立新羽高校、県立白山高校、県立柏陽高校、県立橋本高校、県立平塚江南高校、県立平塚商業高校、県立氷取沢高校、県立藤沢総合高校、県立保土ヶ谷高校、県立元石川高校、県立弥栄高校、県立大和東高校、県立百合丘高校、県立横須賀高校、県立横須賀大津高校、県立横須賀明光高校、県立横浜旭陵高校、県立横浜栄高校、県立横浜翠嵐高校、県立横浜清陵総合高校、県立横浜立野高校、県立横浜平沼高校、神奈川学園高校、自修館中等教育学校、森村学園高等部、横須賀市立横須賀総合高校、横浜女学院高校、横浜翠陵中学・高等学校、横浜創学館高校、横浜市立横浜総合高校、横浜雙葉中学高等学校、県立横浜緑ヶ丘高校
※校名は実施当時のものです。